

# 增鏡

12

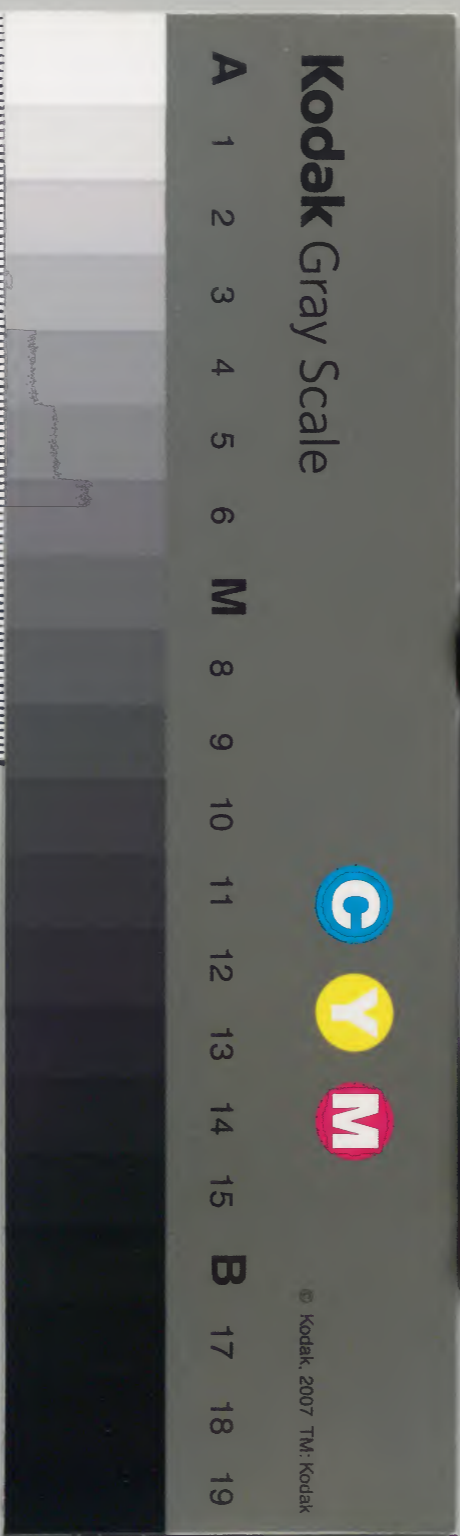
和書  
10412號

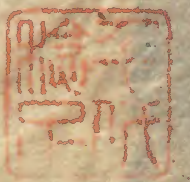
				和書門
		一	一	
		一	五	
冊	架	函	號	類

庫	文	閣	內	
三		一		和
八		四		
函		一		
四		二		書
架	冊	號	類	

內閣文庫	
番號	和 10412
冊數	10 ( 4 )
函號	138 38

138-1





第六  
杉里井所  
御書

書すはるあけ年よりわしをいふれども康元元年

のあはふきり。大子様もこれより御むすゆ

御書は海の上給ふ女院も御書もかたがた御書

に給へば御書の御書もかたがた御書

十二月十七日豊乃ありけりあまはるら

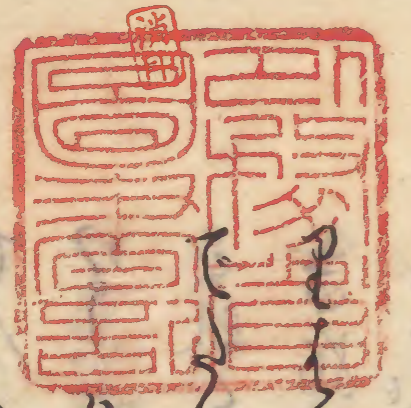
りあやう御書もいふらまへり

てこれ日御書もいふらまへり

夕くれふまへそ久きいふらまへり

うらぬ文のあまはるら

園白かた給ひより御書のあまはるら







大きむし... 乃... 入り... 申... 乃  
り... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

最勝講... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...  
乃... 乃... 乃... 乃... 乃... 乃...

あるに事なるはつとあひつとあひつとあひつと  
おのりけりけりけりけりけりけりけり

けりおのりけりけりけりけりけりけりけり  
あけおのりけりけりけりけりけりけり

西暦元年じやうごんげん此書のはしりせいめいもんいんけん義明門院御やまわら  
せ給へし海しつみどりわらうの境にまひて海陸  
はなぬあしやまきし境に海井よ七月又白雲あし

八十七よてあくれを給むあはしりけりけりけり  
ほむなまはしりけりけりけりけりけりけりけり  
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり  
事

きけりけりけりけりけりけりけりけりけり  
勝し井給ひあはしりけりけりけりけりけり

あせ中めできくくのいあはしりけりけりけり  
正嘉三年三月廿日なりけりけりけりけりけり

あしけりけりけりけりけりけりけりけりけり  
けりけりけりけりけりけりけりけりけりけり

大内大司馬大將軍むのりけりけりけりけり  
くあはしりけりけりけりけりけりけりけりけり

あけりけりけりけりけりけりけりけりけり  
くあはしりけりけりけりけりけりけりけり











それより乃八月廿八日壽宮十一ありて清きんぶく  
一終よはのこれ桓仁とまきも世中一やうしくこの  
めきやゆらる事あまて西門をあるすつがそらお  
がされぐ一のみのもれ一づらぬる清物ぐるまれつら  
てよ。ゆらるのやといの敷とくぞく新まきこれ。中千  
セ十日ありけふと。うけしぬりてせんちの  
ちやといるはぬらぬくセ千一

あまはりうすと神のうすれ  
あて十一月廿六日わたり井上後給う。えれ  
きさへあはれよあうちそくたぐく物あーくせん  
くれし伊勢乃ちがあむと思ふあまーたぐとい

むきんぬる事よへいませれらうてらがそくおがゆ。  
うへもたゆ一まうけ給へきと。劔璽のいでせ給  
よ。このはの西接はよ。はまよはあまじよりつあま  
む。十二年此西あうりつらあ。なはつとあまれ  
志はびやうと。伊を。たを。あーとかんてまうり  
あ。并内給のあまへ。たて。あま。あま。あま。  
あまは。あま。あま。あま。あま。あま。  
あま。あま。あま。あま。あま。あま。

あま。あま。あま。あま。あま。あま。  
あま。あま。あま。あま。あま。あま。  
あま。あま。あま。あま。あま。あま。

第七 多岐の地とあはく

寶治二年十月廿日丁酉。多岐みづらに居らん。どむてし  
うらよは幸し。給ふ。おのややの。かんと。まらめ。教上人。お  
もひく。いろうく。のかり。夜ま。くも。みづら。れ。さ。う。す。た。  
ぬい。の。ま。り。お。あ。や。め。ま。か。の。く。より。せ。乃。の。と。あ。  
さ。り。女。一。の。細。や。け。あ。い。く。と。せ。給。よ。は。志。ほ。り。し。  
あ。う。う。す。い。ろ。う。き。ご。り。も。の。乃。所。さ。め。き。何。  
ろ。む。さ。し。此。車。に。ま。と。ま。ら。ふ。す。の。教。上。人。下。藤。  
し。り。子。約。と。中。お。き。め。う。ら。お。せん。ま。さ。う。の。かり。ま。ぬ。  
右馬頭房名。り。く。え。ま。く。れ。し。う。そ。り。お。ゆ。氣。致。た。う。  
ゆ。い。お。れ。く。ま。く。も。れ。う。り。夜。ま。屋。交。あ。ん。の。と。け

み。ら。よ。右。中。井。内。う。ぐ。す。あ。く。の。か。こ。を。り。物。び。  
う。れ。の。ま。あ。の。ひ。や。う。志。の。と。け。那。經。あ。う。ろ。れ。う。り。  
衣。あ。も。ん。の。と。け。親。は。ぐ。二。あ。井。の。う。り。さ。め。あ。り。と。  
一。ひ。つ。ご。伴。氏。さ。ひ。や。う。志。の。と。け。親。お。ら。む。す。び。  
う。ら。よ。あ。お。き。く。と。ま。さ。お。う。と。む。い。う。れ。と。そ。あ。の。  
は。あ。い。も。と。あ。い。し。り。か。ん。し。ら。あ。る。り。川。の。大。納。  
言。う。ま。の。あ。い。し。り。を。店。交。大。ま。き。う。ら。う。あ。い。し。り。山。  
院。の。大。納。を。持。大。納。と。い。と。花。田。の。お。り。お。れ。う。り。き。  
ぬ。づ。き。野。れ。ふ。め。出。出。つ。の。大。納。云。あ。い。し。り。の。う。ら。ん。  
は。う。す。あ。い。と。あ。い。ん。乃。う。こ。が。り。あ。ま。の。な。り。お。れ。う。り。  
き。あ。な。の。い。し。り。副。立。る。後。一。報。文。よ。野。劍。と。も。せ。た。あ。



後大納言おほののたまご言ことすもあまのしじとめぞれもならよと列つらが  
甲かていしくよと井いしよとまのしよとふらうら川が表  
むぐ乃のきしにい母ははまうきこれれど車くるまよと  
よとまのしよとふらと夕ゆふつしよとあめあめ  
えくれりあよとてハ人ひとびくはらくあり  
よとの中ちゆう侍しやう院いんの侍しやうもたはるあはとも侍しやう志しら  
まのしよと平ひら等とう院いん乃のはり教しゆよは母ははよせとありさ  
後ご給たまふ中ちゆう堂だうよと後ご備ひ後ごあり侍しやうきよとて  
のらあよとたはらもやうとせんがうきよとてあ  
とてとてはらんとわら次つぎ川のた右みぎ乃のきよとあは  
志し海うみくたうきよと務つとひとめと院いん乃の侍しやうもよと

いどめてはあむとまの侍しやうもらよと  
ああきれらららきよとてああきよとて  
きよと陪はい膳ぜん権けん大だい納なつ言ごん言ごんはやくとて後ご上じやう人にんの  
めよはははをを中ちゆう堂だう後ご上じやう人にんよとあり女によ房ぶどう中ちゆう堂だう  
えくえとて乃の流りゆうののとて物ものははいいとて  
ああははままよとああままああとてああとてああとてああとて  
ああままののああとてああとてああとてああとて  
よとせせままのの接せつ政せい後ごたた乃のたたとてこれとて  
ささとてむむ給たまふ又また乃の日ひれれのの又また乃の舟ふねよとて  
乃の流りゆう梅ばいののよとままののああとてああとてああとて  
らら流りゆうののああとてああとてああとてああとてああとて

うげしきしれたるがゆへそは物のひよぶさし  
はあつらふすししてなげりるうやゆりり。氷のそ  
こあをるる水ひる物やとそは海はむきかたあり。  
うれしむそくはま乃。魚こそうみほるまてはまひ  
らん。海なられちる浪もえんるるをこそそくふるを。  
よらうのありうらうらも。廿二日くらんぎまの目を匠を  
くりゆのよもきまをまはり終ふ所てやん。和琴<sup>ワヅク</sup>の  
馬<sup>ウマ</sup>ニせまのほはよわとあめドおおとくに御馬  
をまてかうら終ふ院の所<sup>所</sup>にぞもけりひのよ  
てやうしうれまへの海はひいでたれたぞりんれと  
け親切<sup>ちか</sup>らうと二人うけとほ。あはり終ひさ

り終ふまのやあひ終ひのそのら美おこあはだの  
ねと一やん一終あまき。院乃うへあづしれさ  
とすれむ又あらしでなはとこそまらふるが  
飛<sup>と</sup>ぬ兼一終よらうのほらほくうなりあそびの  
のーらせ終むくくう。後終よまうにだ大臣がの  
かひせう後一位一終よ後乃まのーすまより空<sup>あ</sup>の  
かさ後終よのまらとあ。寛治<sup>くわんじ</sup>一ハのうつひ正位  
下<sup>した</sup>。保元<sup>たへん</sup>月乃精愛<sup>しやうあい</sup>后<sup>ご</sup>下<sup>した</sup>にやんをぞーなすひる。  
そののあつらふたは物ふきまあ。一あはさへい  
り。よとあてまきくおのー後。くらんぎま乃たり日  
は女房<sup>にようぼう</sup>のまらとくうくまへはすいあ

十をがのくむははかよなうむのよて大納を二  
位乃ぎししよなうらふなふらやう二位のしよ  
別よつらされり速久は交あまうむむ入の  
さの女もあのもあやあがーしてけるあやまよく  
ゆーま事しよあてよあぬあは清海との程よ  
二条あうれれうぢよ火つごよて<sup>圓院教の</sup>位つが  
ま乃らあまてん<sup>内膳を</sup>焼く神代よりけり  
あはく候もなげそこあられく候とぞいとあは  
まのよははゆりうけりまじういありけり  
なをむ野一とけ忌火二とて<sup>急火</sup>とく  
<sup>圓融院の</sup>位代<sup>永觀の</sup>ころ二にせふり

はらりあはは事りやうくあはま  
まて<sup>神祇官</sup>よまうづのまあまき事とも  
ぐらあむ野とのむと<sup>陰陽寮</sup>よあて  
こつらとのあまらあられど中あは  
よりあはまらあまらあ忌火とのよて六月十  
二月の位事乃ほせんをてうじわり<sup>急火</sup>よてほ  
ぬらあせんともあはれあはれあてあて  
一ま事よてうめあまあはせ  
と色<sup>や</sup>あまもあまかひあはれあははらりあ  
さる<sup>て</sup>あまあまかひあはれあははらりあ  
大まはあまあまかひあはれあははらりあ



とぞゆきしき心。その了ろ宰相乃三位のあまのまこと乃由幸あり  
ゆきしつらめとして人々まのりはむひ給ふ。せよ給へ  
し。関白後とす。トめ大臣かえつらめお甲あてく。おん  
との女立日あり文章はらるせ序をそまつら。後  
繼の具めされ。人々まのりはむひ給ふ。せよ給へ  
そのら文章をめて詩のむらありき。おんまのり  
ぎにあめゆも保延乃きま。とぞうけい。おん  
り。おめて。と。けぬまは。寛治も。このよあぬ。  
きまら。く。あ。の。せ。れ。日。り。き。思。ひ。あ。い。ん  
い。に。と。院。う。ら。れ。き。き。ゆ。と。ふ。め。て。あ。い。橋  
改。ま。も。お。れ。と。こ。あ。り。院。の。由。ま。へ。き。は。ら。い。ん。を

い。と。び。大。院。も。も。あ。り。ま。の。冷。泉。ま。で。れ。こ。う。ら  
あ。と。い。は。れ。と。れ。お。の。大。納。ま。ま。ら。ら。れ。あ。ら。い。  
あ。の。ご。う。院。乃。お。ん。ま。せ。れ。お。れ。い。ん。く。ま。あ。わ  
給。よ。橋。政。殿。兼。た。大。臣。の。右。大。臣。等。内。大。臣。の。り。  
大。納。ま。は。き。む。と。け。美。雄。あ。ま。は。ご。道。良。中。納。ま  
よ。た。め。つ。の。り。の。り。資。季。冬。忠。美。茂。公。老。み。ら。な。ま  
定。嗣。さ。い。や。う。よ。み。ら。ゆ。き。も。ら。の。の。ぐ。あ。ま。教。上。人  
ま。や。う。貫。首。と。と。め。ぐ。す。ま。い。は。は。の。ら。と。く  
す。あ。え。き。い。き。あ。ま。の。り。は。ご。給。つ。ま。人。く。こ。ら  
な。ま。給。つ。ら。き。あ。の。お。ん。は。橋。政。乃。は。ま。あ。ま。を。  
別。志。り。を。給。く。ま。ら。給。つ。り。者。も。又。その。お。あ。つ。

かすりより其のまゝに傳繼。おはらむ。まゝし。なり  
ふらむ。あはらむ。まゝに。い。い。して。屏風。よ。あ。い。わ。せ。  
あ。乃。事。一。人。よ。く。一。と。の。ら。ま。ま。で。い。は。く。院。の。ま。  
る。一。か。ら。せ。し。ま。く。核。政。な。よ。た。つ。の。ま。ま。に。  
う。め。く。つ。け。あ。と。貞。應。元。年。に。ま。あ。一。か。し。ら。  
で。ま。く。ま。や。な。大。長。い。す。乃。内。の。お。ま。ま。は。あ。や  
右。大。長。よ。て。ま。り。ま。ま。あ。ら。は。く。よ。た。れ。り。ま。る。  
と。ぞ。の。ま。ら。の。ま。ま。と。あ。と。大。長。い。す。乃。内。の。お。ま。ま。  
と。て。乃。ら。た。ま。は。ら。あ。ら。ま。ひ。ら。え。と。と。ま。ま。い。わ。  
ま。ま。院。お。れ。一。と。ま。ま。ら。小。弼。祿。せ。ら。忍。か。ま。  
よ。ま。れ。む。し。く。ま。ま。ら。ま。ま。大。長。院。乃。お。れ。

めであへ。ま。ま。り。ま。ま。院。乃。お。れ。一。と。ま。ま。ら。小。弼。祿。せ。ら。忍。か。ま。  
ま。ま。院。乃。お。れ。一。と。ま。ま。ら。小。弼。祿。せ。ら。忍。か。ま。  
ま。ま。院。乃。お。れ。一。と。ま。ま。ら。小。弼。祿。せ。ら。忍。か。ま。  
ま。ま。院。乃。お。れ。一。と。ま。ま。ら。小。弼。祿。せ。ら。忍。か。ま。  
ま。ま。院。乃。お。れ。一。と。ま。ま。ら。小。弼。祿。せ。ら。忍。か。ま。  
ま。ま。院。乃。お。れ。一。と。ま。ま。ら。小。弼。祿。せ。ら。忍。か。ま。  
ま。ま。院。乃。お。れ。一。と。ま。ま。ら。小。弼。祿。せ。ら。忍。か。ま。  
ま。ま。院。乃。お。れ。一。と。ま。ま。ら。小。弼。祿。せ。ら。忍。か。ま。  
ま。ま。院。乃。お。れ。一。と。ま。ま。ら。小。弼。祿。せ。ら。忍。か。ま。  
ま。ま。院。乃。お。れ。一。と。ま。ま。ら。小。弼。祿。せ。ら。忍。か。ま。  
ま。ま。院。乃。お。れ。一。と。ま。ま。ら。小。弼。祿。せ。ら。忍。か。ま。  
ま。ま。院。乃。お。れ。一。と。ま。ま。ら。小。弼。祿。せ。ら。忍。か。ま。  
ま。ま。院。乃。お。れ。一。と。ま。ま。ら。小。弼。祿。せ。ら。忍。か。ま。  
ま。ま。院。乃。お。れ。一。と。ま。ま。ら。小。弼。祿。せ。ら。忍。か。ま。  
ま。ま。院。乃。お。れ。一。と。ま。ま。ら。小。弼。祿。せ。ら。忍。か。ま。



了そはきの一筋にあらぬまゝに此中よりおのほひの  
ほかりちよとせられし事には院をいひらりしごと  
ひやしてせたまふいさやかくいしは種は二月一日の衆  
議のよりもあらぬまゝのうちに入むるれよて大い  
衆もあつらふお神の御もくはるは衆院ごの二衆  
おきてのより火いごたてむひのえおつる御と  
よそは一めてたのちもいふおあゆもたのぬら  
らぬのあかりのれくまごあてはらまらぬれ  
んもいけいさけまごんごの申將のほごの  
よはらひまの車は陣あるとめして宮内文乃清  
らへいよのゆらういけはんごはぬいんごてまつ

せ給ひてまもてまつ御せん一はらりごりて  
門といそまいてませ給よごらあやましく指大納言  
さよとのまのり給りまは車よあうつりて春日  
富少治よきんごけの大納言乃おんすのあはゆ事  
あらまごれやごふを核政殿とてあはまごたご乃左  
大臣由大臣よりまもあやまご人くまのりはたご  
初給の院もはくする門ごてごんごてまつま給よ  
衆くおやごふ衆後殿よりまは目はあはけかありあ  
らへごご後のおんごまはまごてまごらあへり人  
してゆ事ありああけらごのちごのあはひのあ  
らへ乃た衆らごらゆ給へ初まなりてまご

内裏のあまぬ内はかく事おもはしはめりも  
 あつ世あらわての事いさしなきあ天徳四年む  
 ろうころはたむりめとすまらりし代りいれり。  
 ところで井條<sup>よど</sup>なるありあむあむびし代のは代は  
 一もあはるひりたりしかど。養元は焼めあり  
 きえくしは元平四年いかりはるあてを鹿を  
 けうまむげそんして又かくうらつてあるをいれ  
 ありまのしおほきあまわしは門乃法車にいそ  
 まかかへくあせ給くあぶくまの記事と  
 うやとて人くあひ物さす。後色あぶるまむか  
 されてもあまき事とえむるをたつひらまむあむ

ところ。後をぬりしひりしはかりのついであま  
 法との井乃人くあぶりうらわまはらつてい  
 て。法儀乃雲井あまど中しくいそまむうなま。  
 きこのあひ乃けすむる紅梅<sup>くわい</sup>けいやおりしはくさ  
 くらひるが院の法ありりあつひりなるあむやと那  
 まは雅家<sup>たか</sup>乃いりやう井中將しついでえむい  
 あらひまあふうすやうはあはか給ひく。院乃上  
 久もあまあひひりしは梅はくれ  
 九まらりしはるなるのたあふ  
 中てうれ梅<sup>むぎ</sup>のむいひはまはあらあはれ  
 梅<sup>うめ</sup>うけいさむらりくやなるしとまむりありしは

あかたがやいとつゆのあつめくねとて川より  
 せうれまほしうやうまじきすれゆりあるて  
 くら物しうれまほしうき物よそゆるやせ  
 やうくはらうとて年号のあ。三月十八日  
 よありぬまほしうと火災つまつて廿三日又  
 あつめくはらむらまらかづりて大納言雅親の  
 乃そまじり火いそまて百よらやうやまじり  
 ありしとていしあ。寛元四年六月  
 おそらうしき火ゆりしとてあつめくはら  
 よりしとてえさるしとて大納言雅親の  
 中方のしとてあつめくはらむらまら

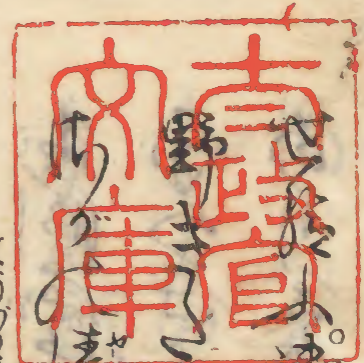
ありしとていしあ。寛元四年六月  
 おそらうしき火ゆりしとてあつめくはら  
 よりしとてえさるしとて大納言雅親の  
 中方のしとてあつめくはらむらまら  
 ありしとていしあ。寛元四年六月  
 おそらうしき火ゆりしとてあつめくはら  
 よりしとてえさるしとて大納言雅親の  
 中方のしとてあつめくはらむらまら  
 ありしとていしあ。寛元四年六月  
 おそらうしき火ゆりしとてあつめくはら  
 よりしとてえさるしとて大納言雅親の  
 中方のしとてあつめくはらむらまら

はるふらひいちやうがむいしゆをろつあり又いし  
くされ鐘樓そりたるちちちちちちちちちちちち  
風さふもたす一ちちちちちちちちちちちちちち  
一又の物さてもえたりをれむあつていさだの火  
もえあつてのち。又雙林寺といふ山にありは火いて  
ふそ。一ちちちちちちちちちちちちちちちちちち  
あつてれちちちちちちちちちちちちちちちちち  
のち。近邊のちちちちちちちちちちちちちちちち  
ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち  
火いてれちちちちちちちちちちちちちちちちち  
一系もたふ又火出まると十八ちちちちちちちちち

廿三日より廿七日のちちちちちちちちちちちち  
あああああ一日二二三三四五五六七八九十  
ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち  
二ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち  
ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち  
御前をちちちちちちちちちちちちちちちちちち  
ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち  
あつちちちちちちちちちちちちちちちちちちち  
ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち  
ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち  
ちちちちちちちちちちちちちちちちちちちちち



奉とくまのうらふれもまがしりも  
七日のりなりの中よ又説の大乗經なる接子



清浄なるかろえりしあはれありし  
清浄なるかろえりしあはれありし  
清浄なるかろえりしあはれありし



あはれありしあはれありしあはれありし  
あはれありしあはれありしあはれありし  
あはれありしあはれありしあはれありし

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.



